

国際ホテル旅館

INTERNATIONAL HOTEL MANAGEMENT

2021.6/5 第496号

発行所:国際ホテル旅館 〒104-0061東京都中央区銀座8-15-15(株)プライダル産業新聞社内

発行人:米谷美咲 年間購読料11,000円(消費税込)

TEL 03(6226)9580 FAX 03(6226)9578

https://ihr-news.jp

スマート観光DX クライシス

【第2回】「for ビジネス」②

株式会社タップ ホスピタリティサービス工学研究所 執行役 藤原猛



■著者プロフィール

「変なホテル ハウステンボス」開業準備室長・初代総支配人として、IT やロボティクスによるホテルマネジメントを一から企画・構築した。

2019年に「湾つくし」を設立。全国のホテルや旅館、観光施設などで、経営・業務管理のIT化・IoT化、経営改善をサポートする。2020年1月より現職。

宴会場の需要が変わる

政府は5月28日、9都道府県の緊急事態宣言を今月20日まで延長することを決めました。対象地域においては、人流を抑制するための取り組みが継続されることとなります。一方で、ワクチン接種は医療従事者や感染リスクの高い高齢者などを中心に着々と進み、新型コロナウイルスに対する

脅威は徐々に薄れ、共生が進むと思われま

す。その将来を見据え、ホテルや旅館を安全かつ安心に利用できるようになるためにも、私自身が何より重視しているのが、出張をはじめとするビジネス旅行の復活です。経済活動の活性化にも繋がるビジネス旅行について、前回の本稿では、ビジネスパーソンは、コロナ前とは異なるスタイルで宿泊施設を引き続き利用するという仮説のもとで、施設側が取るべき対応を説明しました。今回は、特にバンケット・宴会場のあり方を掘り下げます。

テレワークの普及・浸透に

よって、オフィス面積は一部の業種を除いて縮小傾向にあります。出勤するスタッフも減りますから、自席スペースを確保する必要性も薄れています。もし、この状況下で出勤する理由があるとしたら、会議・ミーティングをする時ぐらいではないでしょうか。

出張先でも同様で、従来なら現場や取引先の社屋などで会議をしていましたが、今は

ホテルがビジネスマンの戦略基地となる姿

外部の人間の訪問を厳しく制限している会社もあります。その場合に、サテライトの会議拠点、具体的には貸し会議室やホテルの小宴会場やファンクションルームなどが求められているのです。

サイズよりも設備

ホテルの宴会場は、大・中・小と参加人数に応じたサイズ展開をしていますが、今は広さよりも設備、とりわけ強靱なインターネット回線のニーズが強まっています。たとえば外部の宴会場や会議室を使うとしても、参加人数を抑えるため、テレビ会議システム

などで出席するメンバーもいるからです。

会議やミーティングは必要な時間だけを指定して場所と設備を予約し、料理や弁当を必要としないケースも多くなります。現在の情勢を考慮してスピード感をもって対応することが顧客満足に繋がることも多々あります。従来の宴会予約のような、見積もりや手配に時間を掛けて対応する

こと自体がガナリセンスで、例えばシェアオフィスの個室を予約するような感覚で、シンプルかつ簡単に利用できる環境が求められるでしょう。それこそ、アプリやブラウザから手軽に利用状況を確認したり予約できたりする仕組みがあれば便利かもしれません。

ホテルや旅館には、コロナ禍を経た世の中の変化に対応するための投資が求められます。収束後は元に戻る・昔のスタイルに戻るのではない、という前提のもとでDXを推進し、宿泊施設から観光産業の経済を「考動*」で取り戻しましょう。

*考動とは考えて動く意味で筆者独自の表現です。